

横浜市立

ろう特別支援学校



令和8年度学校便り No. 4

ホームページ：<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/ss/ro/>

「第1回学校運営協議会が行われました」

副校長 佐々木貴子

5月26日(火)、令和8年度第1回学校運営協議会が開催されました。協議会には、大学准教授、関係諸機関、地域町内会、PTA、元学校関係者の代表の方々と校長を含む9名の委員の皆様にご出席いただきました。また、事務局として副校長、事務長、統括教諭、特別支援教育コーディネーター、聴能担当の6名が参加しました。

今年度初めて委員になられた方もいらしたため、自己紹介の後、校長から学校紹介や教育活動の様子について説明を行いました。あわせて、昨年度から始まった中期学校経営方針(3か年計画)の2年目としての学校運営について、資料を基に説明いたしました。

また、今年度は学校運営協議会から教育委員会への要望書を提出する予定であることから、その内容について校長から説明がありました。本校では、幼児児童生徒数の減少に伴い、教員数も減少する状況にあります。一方で、ろう学校には高度な専門性が求められることから、手話通訳者や言語聴覚士などの専門人材の配置について要望しています。学校の現状を広く教育委員会へ伝えるため、学校運営協議会からも要望を提出していただくことになりました。

後半は、協議の時間とし、意見交換を行いました。特別支援教育コーディネーターからは、年2回実施している『安全に生活するためのアンケート』について説明し、その結果を保護者・地域の皆様にもお伝えできるよう、次回の運営協議会で報告する予定であることをお伝えしました。また、この結果を基に、次年度の学校いじめ対策基本方針の見直しにも生かしていくことを説明しました。

その他、通級指導教室の児童生徒数増加や全国のろう学校を取り巻く状況、専門人材の活用の在り方などについて、活発な意見交換が行われました。

今回の協議を通して、学校として今後検討していくべき課題や貴重なご意見をいただくことができました。いただいたご意見を真摯に受け止め、今後の学校運営に生かしてまいります。

創立100周年を迎えた本校が、保護者のみなさま、地域のみなさま、関係諸機関のみなさまと共に歩み続けられるよう努めてまいります。今後とも、ご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

各部のお便りから

ー 各学部を取組を、学部便りやクラス便り等からピックアップしてご紹介します ー



乳幼児教育相談

乳幼児教育相談の活動室には、鳩時計があります。時間になると鳩が時刻を告げるために出てくる、からくり時計です。

鳩時計が鳴ると、教員が「あっ！」と言って、音のする方向を指さします。そうすると、興味のあるお子さんは、「なんだろう？」と指をさす方向を見ます。お父さんお母さんには「近くで見せて

あげて」とお伝えし、抱っこして鳩が鳴きながら出てくるのを一緒に見てもらいます。音が鳴ると鳩が出てくることがわかると、鳩を近くで見たいので、身振りや「だっこ」をせがむようになります。

「だっこね」と言って抱っこして一緒に鳩を見ましょう。「だっこ」のことはまだ言えなくても、コミュニケーションは成立していますね。ここでのポイントは、必ず「だっこね」「鳩さんいるね」などお子さんに話しかけることです。無言では、気持ちの共有はできても、ことは伝わりません。一緒に楽しく「お話」をしていきましょう。

そして、「鳩時計」と言っていますが、実は、「鳩」ではなく「かっこう」だそうです。

(「おたより」より引用)

幼稚部

雨の日が多く、なかなか外で遊べなかったり、プールに入れなかったりした日が続きましたが、6月12日(金)にようやくプールに入ることができました。水遊びの子もプールに入った子も楽しそうでした。

ゆり組の隣の教室には、子どもたちがつかまえた「ダンゴムシ」がいます。毎日霧吹きで水やりをするのが習慣になってきました。はじめは怖くて触れなかった子も、平気で捕まえられるようになりました。そのダンゴムシに赤ちゃんが生まれました。白くて小さい赤ちゃんがいてびっくり!大きくなるのが楽しみです。子どもたちと一緒に成長を見守りたいと思います。

(「幼2 7月予定」より一部引用)

小学部

6月は運動会、授業参観と学校に来ていただく機会も多く、子どもたちの学校での様子を見ていただけたかと思います。今後も子どもたちの成長を一緒に支えていけるようご協力よろしくお願いします。

6月24日(水)小学部の保護者講座では、本校特別支援コーディネーター橘高先生に、時代は変わり、聴覚障害を取り巻く環境も変化がある中、子ども達とのかかわり方として変わらないこと、揺るがないことをお話いただきました。

(「学部だより」より引用)

通級指導教室

今年度第一回目の吃音グループ学習を行い、7名の中学・高校生が集まりました。初の土曜開催で通級を卒業した生徒の参加もあり、出会いや再会の機会になりました。

順番に自己紹介で近況や吃音について話した後、「吃音に対してどのように思っているか」や「話しにくい時の工夫」などについて、素直に思ったことを伝え合っていました。それぞれ吃音への思いや伝え方、工夫などが様々で、「自分とは違う意見も新しい発見になり視野が広がった。」「わかり合えたり、いっぱい話したりすることが嬉しかった。」という、ふり返りでの感想が多くみられました。最後の『ちょこっとチャット』でも、おすすめ曲や趣味、お年玉の使い方などのお題に自分の場合を話し、得意なことの披露には拍手が起こるほどでした。

(たけのこ(中学・高校版)より引用)

中学部

～ 平和学習（道徳）【5月28日（木）、6月4日（木）、11日（木）】 ～

1945（昭和20）年5月29日にあった横浜大空襲を忘れないように、毎年この時期に道徳で平和学習を行っています。「平和とは、争いごとがなく穏やかであること、心配やもめごとがなく穏やかであること」という言葉の確認をしたあと、太平洋戦争について、写真や地図を用いながら全員で学習をしました。縁故疎開や集団疎開があったことを学び、当時の様子を画像やビデオで確認しています。疎開先で、竹やりを使って戦う練習をしている写真は大きなインパクトがあったようです。「竹やりでB29は落とせない」というつぶやきが聞かれました。また、疎開先で食べ物が足りず、カエルやバッタを捕まえて食べたという話があった際には、ほとんどの生徒が顔をしかめていました。どれもこれも約80年前の日本で本当にあったことです。この事実を私たちは忘れてはいけません。5月29日（金）の朝、全員でLL教室に集まり、黙とうを捧げました。私たちは二度と同じ過ちを犯さないという誓いを込めて祈りました。

6月11日（木）には、今年も東京にある「昭和館」から次世代の語り部として活動している前川 忠成さんと坂尻 麻子さんに来校していただき、「学童疎開～戦時下の親元を離れての集団生活」をテーマにお話をいただきました。前川さんのご家族である忠さんと昌子さんの疎開生活を追う形でお話が進みました。カエルやミカンの皮まで食べたことなどが紹介されました。学童疎開は、主に都市部で行われました。最初の対象都市は、東京、横浜、川崎、横須賀、大阪、神戸、名古屋などの13都市でした。学童疎開の総数は多いものでは58万人以上と推計されますが、この人数が公に発表されたことはありません。文部省（現在の文科省）や防空本部、都道府県市町村の調査も、それぞれ数字が違っているようです。戦争中の混乱が各種の集計が一致しないことから伺えます。



生徒から「また戦争になったら、僕たちは疎開しますか？」という質問が出ました。前川さんがこの問いに対して、「日本は戦争を起こさないという信念が大切です。みんなで戦争を止めましょう」と力強くお答えになったのが印象的でした。（「学部だより」より引用）

高等部

～ 6/24(水) ビジネスマナー講座 ～

6月24日（水）5・6時間目に、1年生は会議室、2・3年生は各教室にそれぞれ分かれてビジネスマナー講座が行われました。

1年生と職業・自立コースのみなさんは、株式会社 LITALICO（りたりこ）の就労支援サービス「LITALICO（りたりこ）ワークス」のスタッフの方々の講座を受けました。「挨拶」と「報・連・相」の2つについて、スタッフご自身の実体験を交えながら話してくれました。「挨拶」では、お互いに挨拶を交わし合う理由について考えました。目を合わせながら挨拶することが大切だということ、人間関係を築く最初の一步であるということをお話してくれました。「報・連・相」では、経過や結果を伝える“報告”、今やっていることやこれからやることを伝える“連絡”、困っていることを解決するための“相談”の3つの大切さについて、事例を挙げながら説明してくれました。これらの3つは、仕事の効率をよりよくするとともに、ともに働いている人同士の信頼関係の形成につながるという話は大変参考になりました。

2年生と3年生は、株式会社ゼネラルパートナーズによる就労移行支援事業「atGP ジョブトレ大手町」の聴覚障害コースのスタッフの方々に来ていただきました。（atGP ジョブトレは、障害別に合わせた就労トレーニング・就職活動サポートを行っているところです。）2年生の講座では、職場体験実習を間近に控えていることから「職場体験実習は何のために行うのか」をテーマに、受け入れてもらう職場に対する気遣いやマナーについて学びました。3年生は、「職場の人に自分のきこえをどのように伝えるか」をテーマにグループに分かれて話し合いをしました。

ビジネスマナーにおいて最も重要なのは、理解するだけではなく、実践し続けることです。その中で基本とされているのは、挨拶です。先生など身近な大人に限らず、同級生や先輩、後輩にもしっかり挨拶をすることが大切です。「親しき仲にも礼儀あり」のことわざにあるように、親しい関係や家族であっても相手への気遣いを忘れないよう、日頃から挨拶を心がけていきましょう。